

龍谷

Ryukoku

2019 No.88



政策学部 古市 真歩さん

CONTENTS

- 01** P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
「自分なくし」から
はじめよう
みうら じゅん さん × **入澤 崇** 学長
- 02** P06
Ryukoku 5長 News
次期将来計画（ポスト5長）の検討を進めています
P06-P07
- 03** P07
Ryukoku Event
・京阪電車「深草」駅が「龍谷大前深草」に駅名変更
・創立380周年記念事業「世界宗教フォーラム」を11月に開催
・瀬田学舎開学30周年記念対談会・シンポジウムを開催
- 04** P08
People, Unlimited
「日本拳法」一筋で
めざすは個人・団体での全国大会優勝
富永 一希 さん 経済学部
- P10
People, Unlimited
固定観念を切り崩し、
“緑のダイヤ”に新たな価値を見出したい
久保 慶貴 さん 経営学部
- P12
People, Unlimited
第三の人生は、障害年金制度の問題点を解き、
困っている人の役に立ちたい
青木 久馬 さん 法学研究科
- 05** P14
Education, Unlimited
学生と教員がともに学び合える距離感で
「Best Teacher Award」に
河合 沙織 講師 国際学部
- P18
Education, Unlimited
「無料スーパー」から始める
持続可能な社会づくり
深尾 昌峰 教授 政策学部
- 06** P22
Special Article 特別企画
紙から出た髪で
江戸の食生活に迫る
丸山 敦 准教授 理工学部
- 07** P26
World, Unlimited
異文化コミュニケーションを学び渡る、
私の大きな旅
遅 嘉露 さん 政策学部
- 08** P30
Event Ryukoku Museum
ゆるい、かわいい、たのしい
庶民に愛された「日本の素朴絵」
村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員
- 09** P32
People, Unlimited 龍谷人
人生の半分が日本
まだまだ続く卓球人生
孫 雪 さん
卓球・張本美和選手専属コーチ
- P34
People, Unlimited 龍谷人
時代を彩るアーティストとともに
世の中に文化の種をまく
中西 正樹 さん
株式会社アミューズ 代表取締役 社長執行役員
- P36
People, Unlimited 龍谷人
中高生の学習支援、
小さな一歩から
村上 真奈 さんの ぎ自学室 主宰
社会福祉法人島根県社会福祉協議会 社会福祉士
- 10** P38
News & Topics
最新情報
- 11** P44
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

「自分なくし」からはじめよう

イラストレーターなど

みうら じゅん

×

龍谷大学学長

入澤 崇





みうら じゅん 1958年京都市生まれ。東山中学・高校を経て、武蔵野美術大学在学中に漫画家としてデビュー。以降、イラストレーター、ミュージシャン、作家など多才に活躍。1997年「マイブーム」が新語・流行語大賞に。2004年度日本映画批評家大賞功労賞。2018年仏教伝道文化賞沼田奨励賞受賞。著書に『マイ仏教』など、共著に『見仏記』などがある。

『見仏記』シリーズで仏像ブームを巻き起こした“イラストレーターなど”のみうらじゅんさん。幼い頃から仏像めぐりが趣味、仏教系の中学高校で学び、『アウトドア般若心経』、『マイ仏教』などの著書があり仏教ファンとしても知られている。2018年には仏教伝道文化賞沼田奨励賞を受賞。そんなみうらさんと入澤学長が、仏教観や若者への思いをユーモアたっぷりに語り合った。

入澤 2018年にみうらさんが仏教伝道協会の賞を受賞されたでしょう。日本仏教界の最高峰レベルの、東大名誉教授が受賞されるような賞、そこに“みうらじゅん”がポンと入った。

みうら いや、その授賞式で奥さんを介添人としてって言われたんですけど、ここは仏友のいとうせいこうさんにお願ひしました。かなりの違和感が会場に漂ってましたよ(笑)。それは仏教伝道協会の存在をアピールする役も担っているのかなと思い、その年の『みうらじゅん賞』を勝手に仏教伝道協会に贈らせていただきました(笑)。『見仏記』も当初は、髪を真っ赤に染めたロン毛の男が仏像見て好き勝手なこと言っていたので、よく「けしからん」とお叱りを受けていたもんです。みんなカタチから入ってますからね。常識が変わるためには、その時代の非常識も重要だと思います。怖がらないで非常識なことを、というのは若い時に流行ってたロックから教えてもらったことなんです。「カッコイイ!」と言われる、あの現象は仏像にもあるんじゃないか。仏教も、根底に流れる真理を知る前に仏像の姿カタチから入ってもいいんじゃないかと思ったんです。その内、仏像にはまり込んでいけば、徐々にその教

義がわかってきますからね。

入澤 あれで、お堅い仏教界に風穴が開いたと思うんです。仏教伝来の経緯を見ても、ガンダーラでの仏像誕生や、日本に来てからの神仏習合は、まさに非常識が流れを変えてきた。「キャーッ」となる仏像の肉感的なりアルさも仏教を広めた一因となったはず。思想をありがたがるだけでは、若者との距離は縮まらないでしょうね。思想面での接点と言えば、みうらさんが出演されていたドキュメンタリー番組「最後の講義」(NHK)では、若者に“自分探し”しすぎ、“自分なくし”をとおっしゃっていましたね。あれこそ仏教を伝えるのに必要なことだと強く思いました。

みうら 自分など、探しても見つからないから苦しい。だったら、あると思ひ込んで自分とやらを消していき、ひとつずつ諦めて、それでも残ったものが自分なんじゃないかと。自分にやれることがたくさんあるんじゃないかって鼻息荒くするから、CO₂が増えて問題になってるんじゃないでしょうかね(笑)。「自分探し」の言葉の呪縛からみんなが探さなきゃいけないような気がしてるだけですよ。たいしたことない自分を認めると、すごく楽になりますけどね。

入澤 それを打ち出したのが親鸞聖人ですよ。さらけ出した。それが人々の救いになった。いま親鸞聖人が生きていたらどんな行動をするだろう、どんな言葉を言うだろうって考える人が出てこない、権威や組織化で膨らんだものを大事に抱え込んでいて、仏教のメッセージがいつまでも若者に届かないままのような気がしています。



入澤 崇 ირიჯაუ თაკი 龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

みうら 既に有ることを引き継いでも、ただそれだけです。みんながやりたがらなかったことを、親鸞のようなかつての偉人たちは、やっつてのけたんじゃないかと思います。だから、非常識が常識を変えるなんてこともあるんじゃないかと。

入澤 番組内でフーテンの寅さんの話にもすごく共感しました。私も幼い頃、地元因島のお祭りに来ていたテキ屋のおじさんの売り文句が大好きで。学生になってから寅さんの映画を観て「四角四面は豆腐屋の娘…」の口上を聴いて「これだ」とファンに。寅さんというトラベラーがいろんなところでいろんなトラブルを起こすんですが、今の若い子たちって、格段に旅をしなくなった。ネットで検索してわかったつもりになりがちで。

みうら 旅はネットでは分からないことがいっぱいありますからね。厄介なことをわざと体験しに行って、帰ってきてそれを経験にする。寅さんは年から年中、旅に出てるでしょう。ロックでいうツアーですよ。

寅さんって御前様が遣わした使徒みたいな役だと思うんです。トラブルを起こすたびに「どんな気持ちがある？」ってボブ・ディランの歌詞のようなことを問い掛けてくる。荒ぶる邪鬼が周りの良心を引き出してどうにか収める…そういう見方をしているとすごく面白くて。僕も小学生の時、京都北野天満宮の天神さんの日に、テキ屋のおじさんから独鈷(とっこ)を買ったことがあるんですよ。「これは弘法大師の昔からー」って、嘘ばっかりなんですけど、口上に連れて来て(笑)。エンターティナーですよ。そのインチキさがまた面白くて、それをまだ許せる世の中でしたから。それを笑って過ごすのが「試し」じゃないです

か。今はもう「試し」が無い。クレームになる。人生お試し期間があまりにも無すぎですよ。ね。

入澤 大学にいる間が、お試し期間のはずなんですよ。

みうら 学長までがそうおっしゃるのなら(笑)。お話し期間のなかに、龍大のように仏教の教えもあっていいと思います。教授陣がテキ屋の口調であれば尚更いいですね(笑)。学生に喜ばれない授業って意味がないと思うし、学生も発表なんかで皆に喜ばれようとするそのご機嫌取りがエンターティメントの根源ですから。相手を機嫌良くするのが一番ですよ。お釈迦さまも、タイの仏像を見れば、入滅するときすらアルカイックスマイルでおられる。「怖くなんか無いよ。無に始まり、無で終わるだけのこと。ドンマイドンマイ、機嫌良くいきますから。悲しまないでよ」ってね。だから誰かを喜ばせているとき、お釈迦さまがいっつも一緒におられるんじゃないかなあって思うんですけどね。

入澤 本年迎える本学の創立380周年の基本コンセプトとして「自省利他」を挙げたんですよ。自ら省みて、他を利する。難しいことじゃなく、まさに「隣の人を喜ばせる」「機嫌良くさせる」。みんながこの視点を持ってたら未来は変わっていくのではないかと私も思っています。

自分探しという妄念にとらわれず、自意識バリアを低くしてみると、他者と共にあるリアルな自分が見えてきます。仏教の教えに照らせば、自分の都合でしかものを認識していなかった自身の姿が明瞭になってきます。そこがスタートですね、新たな人生の。

02 | Ryukoku 5長 News

次期将来計画（ポスト5長）の検討を進めています

今年度は、第5次長期計画（2010～2019年度）の最終年度であり、その事業完遂に全力を注ぐとともに、2020年度から展開する次期将来計画（ポスト5長）の検討を進めています。

次期計画の策定にあたっては、全学の叡智を集結させるべく、教職員や学生を対象にした全学的なワークショップを複数回開催し、学内構成員の幅広い意見を聞きながら、魅力ある内容となるよう、その検討をおこなっています。

次号でその詳細をお伝えさせていただく予定をしておりますので、現在、策定中の次期将来計画（ポスト5長）にどうぞご期待ください。



03 | Ryukoku Event

京阪電車「深草」駅が「龍谷大前深草」に駅名変更

2019年10月1日より、京阪電車「深草」駅が「龍谷大前深草」駅に変わります。歴史ある「深草」の地名を残しつつ、1960年の深草キャンパス設置から、地域とともに約60年の歴史を重ねてきた「龍谷大学」の名称が駅名に付加されることになりました。

今回の駅名変更にあわせて、今後、学生が中心となって深草の歴史や名所を探索し、地域の方をはじめ多くの方々に、深草の魅力を伝えるプロジェクトを進めていく予定です。

また、2020年春には現在建築中である龍

谷大学内施設に、一般の方が利用することができるレストランも設置し、よりいっそう地域住民の皆様が開かれた大学をめざしてまいります。



龍谷大学創立380周年記念事業

創立380周年記念事業「世界宗教フォーラム」を11月に開催

龍谷大学は創立380周年記念事業の一環として、「自省利他」をテーマとする世界宗教フォーラム「自省利他の社会を求めて」を2019年11月16日(土)に深草キャンパスにおいて開催します。

フォーラムでは「自省利他」が、世界の諸宗教ばかりではなく実業界や科学技術界においてもいかに重要な働きをしているか、いかに世界の未来を左右するキー・コンセプトであるかを、諸方面の方々に語っていただきます。

先ず基調講演をしてくださるのは、低利融資によって貧困層の自立を支援し、ノーベル平和賞を受賞されたユヌス氏。同氏の事業は社会課題の解決を目的とするソーシャルビジネスの最も典型的な成功例とされ、まさに「自省利他」の事業化と言えます。

特別講演では、森本公誠氏(東大寺長老)、ハンス ユーゲン・マルクス氏(藤女子大学学長・カトリック司祭)、吉川弘之氏(日本学士院会員・東京大学第25代総長)、熊野英介氏(アマタホールディングス代表取締役)がそれぞれ仏教、イスラム教、キリスト教、工学、企業における自省利他についてお話しくださいます。

最後に、特別講演の講師がパネルディスカッションを行い、「自省利他」の未来を描きます。

フォーラムへの参加申し込み方法は、世界仏教文化研究センター等のホームページ(<https://rewbc.ryukoku.ac.jp/index.php>)に9月下旬頃発表する予定です。ご期待ください。

龍谷大学創立380周年記念事業

瀬田学舎開学30周年記念対談会・シンポジウムを開催

2019年10月26日(土)、瀬田学舎にて、瀬田学舎開学30周年記念対談会・シンポジウム「仏教SDGs～近江商人の「三方よし」に学ぶ～」を開催します。

対談会では、滋賀県知事であり本学農学部客員教授である三日月大造氏と入澤崇学長が「仏教SDGs」と「三方よし」の融合やこれからのあり方について意見交換をおこないます。本学は、仏教の観点から持続可能な社会を実現する「仏教SDGs」の推進を掲げています。浄土真宗の精神を取り入れた

近江商人の経営哲学である「三方よし」とは関連することが多いため、対談を通して多くの学びを得ることが期待されます。



04 | People, Unlimited

「日本拳法」一筋で めざすは個人・団体での 全国大会優勝

富永 一希 さん

経済学部1年生

関西福祉科学大学高等学校 出身

「日本拳法」をご存知だろうか？ 昭和初期に創始されたという、比較的新しい武道だ。防具を着用し、投げ技や寝技、パンチや突きを駆使して勝敗を競い合う、自衛隊のトレーニングに取り入れられているほど実戦的な総合格闘技である。

今年4月、西日本学生拳法選手権において、本学の日本拳法部男子団体は、3年連続優勝という輝かしい成績を残した。しかも1年生でありながら、優勝候補である対戦相手のキャプテンに見事勝利し、最優秀選手に選ばれたのが富永一希さんだ。

「日本拳法との出会いは小学生の時。家

の近所に道場があり、友達と遊べるからと通い始めました。今の僕があるのは、その道場の恩師のおかげです。優勝した時も会場に見に来て一緒に喜んでくれました。今でも大学の部活だけでなく、道場にも通っています」

日本拳法部のなかでも富永さんのように小学生から続けているのは少数派だという。

「それは父から“一つ始めたことはやり続けること”と教えられてきたから。中学時代はラグビーにも熱中していましたが、父に“個人競技の方が向いている”と言われて、この道一本に絞りました。そのおかげで、高校も大学も日本拳法の推薦枠で入学できたので、よ



試合中の富永一希さん

かったのかもしれませんが」

今回の勝因は？「士気が下がらないよう、声を出し合ったのがよかったと思います。そして、これまでの大会と違って、持久力の試される勝ち抜き戦だったので、とにかく体力第一。コツコツ筋トレを続けてきました」。今も大学と道場とを行き来しながら、一人、地道なトレーニングを続けるその精神力は並大抵ではないだろう。父上の言葉に間違いはなかった。そんな富永さんの今後の目標は？

「10日ほど前、トレーニング中にじん帯を痛めてしまい、今はギブスをつけています。全治2ヶ月。まずは怪我を治し、10月の個人戦の

全国大会で優勝を狙っていきたいですし、もちろん12月の団体戦でも優勝したいです」

卒業後の進路は「消防士になりたい。社会人になっても拳法が続けられるから」。一希さんの進む道は、やはり変わらず一本道のようだ。



富永一希さん

04 | People, Unlimited

固定観念を切り崩し、
“緑のダイヤ”に新たな価値を
見出したい

久保 慶貴 さん

経営学部経営学科3年生
奈良市立一条高等学校 出身

「いま取り組んでいるのは、“緑のダイヤ”と呼ばれる“ぶどう山椒”を未来につなげるプロジェクト。ぶどうのように実付きがいいのがその由来です。そもそも和歌山県は全国でも山椒のシェア65%を誇る一大産地なのですが、なかでもぶどう山椒は緑のダイヤと呼ばれるだけあって、大変希少価値が高いのです。僕らは5月に、その産地である有田川町に足を運び、収穫を体験し、実際どのように商品を流通させているか取材してきました。農家さんとの距離も縮まり、とてもいい経験でしたが、正直、最初は、この学年のテーマが山椒と聞いて“なんで?”と思いました。山

椒といえば、佃煮、うなぎ、程度しか思いつかなかったの…」と語るのが経営学部藤岡ゼミのゼミ長を務める久保慶貴さん。

藤岡ゼミといえば、青森のりんご農家や愛媛や和歌山のみかん農家、京都の佐々木酒造など、地方の農家や企業と連携し、実際の生産や流通の現場での実践的な学びを得られることで知られている。学生ならではの視点での商品開発やプロモーション、現場における相互交流が何よりの魅力だ。目下、久保さんたちゼミ生も、有田川町の自治体関係者に向けたプレゼン資料を制作するのに大忙しなのだが、山椒は、りんご、みかん、日本



現地の有田川町でぶどう山椒の収穫を体験する久保慶貴さん

酒と比較すれば、個性は強いが脇役感否めない。また、人々の山椒に持つ固定観念も根強いいため、新たな用途提案をするのに苦戦しているようだ。

「実は、高齢化と後継者不足、そして育成の難しさもあり、産地自体の存続が危うい状態なのです。若者の“山椒ばなれ”が進み、需要が下がっていることも原因の一つ。そのために、食品利用に限ることなく、固定観念を切り崩す様々な用途を皆で出し合っています。線香、匂い袋、食器、殺虫剤、あるいはあえてファーストフード店とコラボするなどの案も考えています」

気がつけば、自宅の冷蔵庫のなかは山椒でいっぱい。また、学食に行けば「なぜ、卓上に山椒が置いていないのか？」と軽く憤りすら覚えるほど。とにもかくにもにわか“山椒愛”が芽生えてきた彼らが起こす、これからの新たな“化学変化”に期待したい。



久保 慶貴 さん

04 | People, Unlimited

第三の人生は、
障害年金制度の問題点を解き、
困っている人の役に立ちたい

青木 久馬 さん

法学研究科修士課程1年生

若い学生たちが急ぎ足で授業に向かう深草キャンパスの東門に、一人たたくも白髪の男性。現役の大学教員というには幾分ご高齢に見受けられるこの御仁こそ、4月より社会人入試枠にて法学研究科に入学した大学院1年生の青木久馬さん。なんと御年87歳。「ほやほやの1年生です」と謙遜するが、何を隠そう青木さん、大ベテランの社会保険労務士でもある。病気や怪我などで障がいを持った方に支給される公的年金『障害年金』の専門家であり、経験豊富な実務家としてその業界ではよく知られた人物だ。

「若い頃は医者志望でした。けれど、兄弟

が多かったので家族を養わなければならず、高校卒業後に大手都市銀行に就職しました。銀行で働きながら医学部をめざすつもりだったのですが、目の当たりにしたのはいつ果てるかもしれない長時間労働でした。ですから勉強する時間などまるで取れなくて」

それを機に、銀行員として勤めを果たす傍ら、労働環境改善のための運動を通じて労働問題に取り組み続けること36年。55歳の定年を迎える前に、社労士の資格も取得。定年後は「日本は世界的に最も受給率が低い。そもそも制度自体に問題があることは明らかなのに、十分な研究がなされていない」



と、『障害年金』に焦点を絞り活動してきた。

「銀行を定年まで勤めあげた後、社労士としても30年以上働いてきました。医者とは違う形でしたが、病気や怪我で困っている人に、目に見える救済として役立てることが何よりの喜びでした。でも、今はもっと枠組みを大きく捉えて、この制度自体の問題点を論理的に明らかにする研究をしていきたい。これが私の「第三の人生」の目標です」

自宅から2時間ほどかけて週2日通学するだけでなく「これから後期に向けてもっともっと本を読んでおかないと」と、図書館で本を読むためだけに通う日もあるという。

「入学して数ヶ月、憲法も法律も独りよがりな読み方ではダメなんだと痛烈に感じました」。好々爺の風貌の向こう側に燃えたぎるような情熱を隠し持つ“ほやほやの1年生”の存在は、その教室に、その研究室に、大きな刺激を与えているのは間違いないだろう。



青木 久馬 さん

05 | Education, Unlimited

学生と教員が ともに学び合える距離感で 「Best Teacher Award」に

国際学部グローバルスタディーズ学科

河合 沙織 講師

学生の言葉は絶対に否定しない

「日本で一番勉強する学科」を掲げ、2015年に国際学部グローバルスタディーズ学科(以下GS学科)がスタートして4年。第1期生の卒業を迎えた同学科では、学生のリアルな感想を集めてこれまでの教育内容を振り返るため、卒業生を対象にアンケートを実施した。その結果、GS学科の14名の専任教員のうち、若手ながら最も学生の支持を集め“Best Teacher Award 2018”に選出されたのが、河合沙織講師だ。

選出理由は、「親身で相談しやすい」、「授業がインタラクティブでおもしろい」、「アドバイスが的確」など様々だが、彼女が選ばれた理由をさらに探っていくと、そこにはいまの時代に求められている学生と教員の理想的な関係がみえてきた。

「まるで部室です」という河合講師の研究室には、質問があるゼミ生はもちろん、特に

用がない学生もふらりと訪れる。雑談からはじまり時事問題で議論、人生相談へ発展することも。講師も自身の研究や人生について包み隠さず学生に話す。河合講師は、見た目こそ若々しいが、JICAブラジル事務所や在ブラジル日本国大使館で専門調査員として研究した経歴を持つラテンアメリカ経済のスペシャリストだ。しかし「学生とはともに学び合う関係」といい、常に等身大で学生と接する。研究者といわれて思い浮かべる気難しさや近寄りがたさは皆無である。学生と接する上で大切にしていることは、学生の言葉はどんな言葉でも全力で拾い、絶対に否定はしないということ。

「教員って親でもなくアルバイト先の上司でもない、不思議な距離感の身近な大人ですよ。興味を持ってばぐんと伸びる大学時代に、真剣に向き合い導いてくれる存在がいるかどうかで学生の成長は大きく変わるのではないのでしょうか」



Best Teacherに選ばれた河合沙織講師



学科一丸となって学生を育てる

授業では学生を下の名前やあだ名で呼ぶという河合講師。覚えてもらっているという信頼がベースにあるからだろう、同講師の授業は学生が積極的に発言し、授業が双方向に盛り上がる。ある学生が授業観察をしたところ、90分間に50回以上も学生から声が上がっていたようだ。

「GS学科の学生は全員が留学するので、日本にいるうちから間違いを恐れずに自分の声を発することに慣れておくことが大切です。学生たちは1年時から少人数制のクラスで教員やクラスメイトと議論をしながら、発言

力や思考力を鍛えます。また、今後ますます正解が読めなくなる世の中で生きていくためにも、自力で考え、自分なりの答えを出す力は欠かせません。そういった力を養うために教員がすべきことは、一方的に知識を詰め込むのではなく、様々な角度から一緒に考え、背中を押してあげることなのではないでしょうか」

ちなみに学生と教員との距離が近いのは、GS学科全体の特徴でもある。GS学科は、課題は英語漬け、TOEIC730点以上が卒業要件などストイックな教育内容が特徴だが、学生の学習モチベーションを維持し続けるために教員は細やかなサポートを欠かさな



学生のとんだ発言もできる限り拾うという河合講師の授業



河合沙織・かわいさおり

専門はラテンアメリカ経済。女子サッカーに情熱を燃やした高校時代にサッカー選手を夢見たことから、ブラジルに興味を持つ。近年は、経済格差にフォーカスした研究が中心で、年に2、3回現地にてフィールドワークをおこなう。ブラジルの魅力は「常に変化し続けていること」。

神戸大学大学院国際協力研究科博士課程後期課程修了。博士(学術)。国際開発政策を専攻。2006年よりJICAブラジル事務所・ペルナンブコ連邦大学公衆衛生社会開発センターにてインターン。2010年よりブラジル日本国大使館専門調査員。2015年より龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科専任講師。

い。教員は各学生に関する情報を常に学科内で共有し、全員で学生を育てていくという意識が強い。また、教員同士の交流も活発で、予定を把握しあってフォローしたり、互いの授業を見て学ぶことも多いという。

アンケートでのGS学科への満足度は、「とても満足」、「満足」、あわせて99%だった。回答はすべて学科会議で共有し、強みと弱みを分析した上で、今後の改善に活用する。手間を惜しまず、信頼と愛情のもとに、多くの目と手で学生を育てる。大学教育のあり方が問われて久しいが、人材育成の要は目先の改革だけではなく、教員一人ひとりの熱量であることをGS学科は全力で証明し続けている。

05 | Education, Unlimited

「無料スーパー」から始める 持続可能な社会づくり

政策学部政策学科

深尾 昌峰 教授

食品ロス問題の啓発のため 自分たちができるところを探る

6月のある日、本学深草町家キャンパス。通りに響くのは「いらっしやいませ」の声。近隣に住む人が覗きにやってきた。白シャツに揃いのスカーフの学生スタッフが出迎える。並べられた商品は一見何の違和感もないが、実は寄付で集まってきた賞味期限前の食品たち。入り口には「無料スーパー」の看板が。

ここは、廃棄直前の商品を集めて無料で提供する、関西では初の無料スーパー「Kyo 0 マーケット」。食品ロス削減の啓発を目的に、政策学部深尾ゼミの学生たちが企画し、5度目の開催となった。前回の開催では近隣住民が70人近く来場し、101品が完売。約28kgの食品を循環させた。

日本国内の「食品ロス」、すなわち売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられたはずの食品等がゴミになる量は、年

間約646万トンにものぼるといふ。これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量を、大きく上回る量。深尾ゼミでは生ゴミ処理施設を見学する機会があり、学生たちは食べられる食品が大量に廃棄されている現実を目の当たりにし、ショックを受けた。

「その根底には自分たちの暮らし方や購買方法が大きく関わっていることに学生たちも気づき、自分たちが感じたことをどう地域に伝えるかを考え始めました。その過程で東京都多摩市のNPO法人『シェア・マインド』がおこなっている『無料スーパー』の取り組みを知り、直接ヒアリングしに行くなどの調査をおこないました。そしてKyo 0 マーケット開催に至りました」

マーケット内では無料スーパーのほか、様々なゴミを再利用した姿を当てる「リサイクルかるた」や、生ゴミの水切りでゴミ量が変わってくることを体感する「水切りゲーム」なども学生たちが企画し実施した。



Kyo 0 マーケット(「無料スーパー」)の店頭で呼び込みをする学生たち



ローカルが活力を増す時代 エシカルな価値創造を叶える人材へ

深尾ゼミ3年生は、Kyo0 マーケット班のほかに、滋賀県東近江市の地域映画制作班や京都府長岡京市の放置竹林問題に取り組む班など、地域と協働するプロジェクトが3つ動いている。ゼミのテーマは、持続可能な地域社会を作るために必要なソリューションを考えること。

「具体的にどうしたら地域が変えられるのか。小さなモデルを作って、実際に自分たちがやりながら考えてみる。そのプロセスのなかでNPO、企業、行政など真剣に社会を変

える人たちと出会うことを大切にしています。自分たちのモデルをやり続けるなかで世の中の縮図を見て、政策的に形成する力を養います」

学生がいくらがんばっても、そんなに社会は変わらないかもしれない。でも無力ではない、微力はある。一人でも意識が変わることが希望の芽であると実感して社会に出てほしい、と深尾教授は語る。ゼミ卒業生のなかには、NPOや、携わった地域で仕事をしていく人、会社を立ち上げ起業する人も多いという。

今、地方創生の掛け声や3.11以降のエネルギー問題によって、自分たちで考えて行動すれば面白くなるぞという手ごたえが各地で



活発な意見が飛びかい笑顔も絶えない深尾ゼミ



深尾 昌峰・ふかおまさたか

1974年生まれ。滋賀大学大学院修士課程修了。教育学修士。専門は、非営利組織論、ローカルファイナンス、阪神淡路大震災で経験したボランティア活動をきっかけに、大学卒業後に「きょうとNPOセンター」を設立。その後、日本初のNPO法人放送局「京都三条ラジオカフェ」や「公益財団法人京都地域創造基金」などの設立・運営に携わり、地域社会の活性化や非営利組織の持続可能なあり方をテーマに活動をおこなう。

2011年本学政策学部准教授、2018年同学部教授。著書に『地域公共政策をになう人材育成』（共著、日本評論社）など。

出始め、チャレンジする町が増えている。ローカルで、小さく始め、エコで、持続可能な価値創造。メガで一極集中、効率性、利益性重視の中央とのギャップがやっと生じてきた。

「今の学生はもう旧世代のステイタスを支持していません。憧れはエシカルな暮らし方にある。雇う雇われるではなく、誰かに喜ばれる仕事をしながら自然に寄り添った衣食住で暮らすことを幸せだと言い切れる世代。今必要なのは、そのような地域の持続可能性のためのアイデアを支える、全く新しい生態系を持ったローカルファイナンスの開発だと私は考えていて、地域の金融機関と研究に取り組んでいます」

06 | Special Article

特別企画

紙から出た髪で 江戸の食生活に迫る

理工学部環境ソリューション工学科

丸山 敦 准教授



丸山 敦 まるやま あつし 1975年東京都生まれ、岐阜県育ち。京大大学院理学部卒、同大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。本学理工学部助手、助教、講師を経て2017年より准教授。学生時代からアフリカ・マラウイ湖や琵琶湖の魚を追いかける。

完璧なタイムカプセル

それは髪 in 紙

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されて5年。その和食のルーツとも言える江戸時代の食生活については、当時の料理本をはじめとする文献から研究はされてきたが、実際にはどのようなものをどれくらい食べていたのか。科学的な分析による裏付けが必要とされている。昔の食生活を知るための科学分析は、書物に記録が残らない古い時代も含めて、遺跡の人骨からコラーゲンを測ることなどがおこなわれているが、遺跡の破損や改変、故人の組織を扱うことへの抵抗などハードルが高い。そこで注目されたのが、このたびの研究である。

本学理工学部の丸山敦准教授らは、動物生態調査用の機械を使って、江戸時代出版の古い書籍に埋め込まれている髪の毛の安定同位体比（いつまでも存在し続ける窒素と炭素の原子の比率）を測定することにより、江戸時代の庶民の食生活を復元することに成功した。この成果は、オンライン科学誌 Scientific Reports (Nature Springer社) にて、2018年8月14日に公開され、同時に国内でも新聞各社がニュースとして取り上げた。

もともと魚類生態学が専門の丸山准教授が、なぜ江戸時代の古書を調査することになったのか。それは2017年の本学オープンキャンパスに遡る。丸山准教授の研究室では、いつもは魚類をはじめとした動物の食性を調べるために使用している機械を使って、若者にわかりやすいように、その場で髪の毛を採取してあなたの食性を調べる、という企画をおこなっていた。炭素の同位体比が高ければとうもろこしなどの雑穀を多く食べていて、低ければ米や麦をよく食べている。また窒素の同位体比が高ければ肉食系、低ければ

ればベジタリアン系と診断できる。

そんな取り組みをしていた丸山准教授のもとに、国文学研究者が、江戸時代の書籍に髪の毛が漉(す)き込まれているという話を寄せてくれた。

江戸時代の書籍の表紙・裏表紙には、コスト削減のために、古紙を再生した厚紙が使われていることが多いのだという。その厚紙に、毛髪がかなり高頻度に漉きこまれている。強度のために意図してあるのか、リサイクルの過程で混入するのかはまだ定かではないが、調査過程では1枚の紙から短い毛が1000本出てきたこともあった。これらは目視でき、ピンセットで簡単に引き抜くことができる。加えて江戸時代の書籍は、1650年頃出版ブームが起こったことで大量に出回っており、現在は古書店で300円程で売られているものもあって、誰でも手に入る。さらに書籍には出版年と出版都市が記載されていて、サンプルの年代や地域まで特定できる。そうなる昔の墓から人毛をとってくるより容易に、優れたサンプルが大量に採取できるのは明らかだ。

今まで古書店員、学芸員、国文学者など古書を扱ってきた人の多くが毛髪の漉き込みには気づいてはいたそうだが、調査には至っていなかった。しかし魚類生態学者の丸山准教授がそこに合ってしまったことで、古書内の毛髪が科学分析されるという時が来たわけだ。

活用したのは「安定同位体分析」といって、動物の食べ物を調べる技術。真空にした機器のなかで調査物の原子を高速で飛ばし、磁場をかけて曲げる。重たいものは曲がりにくくなる。その物体の、基準より重たい窒素安定同位体・炭素安定同位体の存在比率を出し、先述したように食べ物の傾向を予測していく。



社会変動の結果が 食生活に出る

「今回明らかになったのは、江戸時代の日本人はやはり、魚・米中心の食生活であったということです。安定同位体比の図で比較すると、アメリカナイズされた現代の日本人の食性（とくに1980年代が顕著）とは逆の位置に出てきています。世界をみても、炭素安定同位体比がこの低さ（米・麦中心）というのはなかなか出ないんです。究極の日本食…これを質素と呼ぶのなら質素ですね」

そのほか、食生活の地域差や年代変遷も出た。データでは、京都・大阪よりも江戸の方

がヒエ・アワなど雑穀への依存度が高い。これは当時「江戸嫌い」と言われていた病「かっけ」の対策として雑穀食が進んだためと思われる。白米を食べるようになってビタミン不足となり病が流行り、ビタミンを補うために雑穀を摂った。また年代での変遷で言うと、1700年から1900年の200年で徐々に海産物への依存度が高まっていく。造船業の発達により海産物の水揚げが増加して、食卓への登場頻度が上がったと考えられる。

今回の研究発表を機に、歴史の長い本学が大宮図書館に保存する約7万冊の和装本からの毛髪採取も認められた。現在、丸山研究室の学生たちによって分析が進められ



これまでの分析データを振り返る丸山敦准教授

ているという。江戸時代の様々な出来事の前後に、食生活、健康、農林水産業がいかに変化したのか、髪の毛から検証できれば面白い。今後、これまで手薄だった年代や地域の試料が集まることで、より信憑性の高いデータが生まれることが期待できる。

新発見を生んだ 「生かす」こだわり

いつもはアフリカのマラウイ湖に潜って魚と戯れながら研究をしている丸山敦教授。研究室にはダイビングセットが所狭しと並び、大きな水槽のなかにカラフルな魚たちが泳いで

いる。マラウイ湖は魚の種類が世界中で最も豊富だと言われている湖。たくさんの種類の魚と一緒に暮らせるのはなぜなのかを調べるのに、それぞれの食性を分析している。

「いつも研究対象にしている魚類は、機械で分析するときに肉片が必要で殺してしまっているんですが、仏教の大学でもあるし、できるだけ生かしたまま測りたいと思い、粘液からの分析に挑戦していたという経緯がありました。それで、学生に『君たちも生きたまま測れるよ』と遊び感覚で髪の毛を分析したのがきっかけで、古書内の髪の毛との出会いに。こんなこだわりが独自の研究に繋がっていくのかもしれないですね」

07 | World, Unlimited

異文化コミュニケーションを 学び渡る、私の大きな旅

政策学部政策学科3年生

チカイ
遅嘉懿さん



観光コミュニケーションをテーマに学ぶ遅嘉懿（チ・カイ）さんのゼミでの発表風景

中国瀋陽大学から、政策学部へ編入

本学の留学生別科(JCLP)は、日本の大学へ進学したい留学生が、そのステップとして日本語・日本文化を学べる1年間のコースである。日本語能力のレベルに合わせた日本語関係科目、文化や社会に関する特別講義などが受講でき、課外授業では京都に残る伝統文化や芸能を学ぶ機会も用意されている。別科の留学生たちは本学の一般学生が利用できる全ての施設(図書館・情報処理施設等)が利用でき、本学の大学院・学部・短期大学部への推薦入学制度もある。

そんな留学生別科を経て、今年4月に政策学部3年生へ編入して学んでいるのが、遅嘉懿(チ・カイ)さん。中国遼寧省瀋陽市の瀋陽大学で2年学び、昨年度、本学の留学生別科へやってきた。

「小さい頃から、世界のいろんなところに行ってみたいという思いがあり、瀋陽大学に入ってから、まずは地元の歴史や言語を学んで観光ガイドの資格を取りました。使える言語を増やして、ガイドできる地域を1つずつ広げていきたいと。そんなときに参加したある日本語教室で、多様で優秀な日中の学生達に出会って刺激を受け、私も『無難に収まらず、挑戦する人生にしていきたい』と思い、龍谷大学への留学をめざして日本へやってきました」

留学生別科では、先生がとても優しく親身だった、と遅さん。その後の編入先に政策学部を選んだのは、同じ瀋陽大学出身で政策学部に進んだ先輩の話聞いて、アクティブラーニングの機会が多く、成長できそうだなと思ったから。でも日本語の勉強中心だった別科までと比べると、今は雲泥の差の忙しさ。都市政策など、専門科目の内容についていくのに必死で勉強中とのこと。





様々な言語を学び、各地の文化を知りたい

ゼミは、多文化共生や異文化コミュニケーションをテーマにした村田ゼミ(村田和代教授)に所属した。観光コミュニケーションにおける「やさしい日本語」をテーマに、仲間と学んでいる。

「震災をきっかけに、災害時の情報提供ツールについて、多言語を網羅してコミュニケーションしようとするより、相手に寄り添った『やさしい日本語』を使って説明する努力をしたほうが効率的だという気づきがありました。観光コミュニケーションにおいても『やさしい日本語』をテーマに八幡市などいくつ

かの地域に出てワークショップ等をおこなっています。ゼミの日本人学生にとっても、まさに当事者の声を常に聴き、確認しながら、学びを深めていけるので、留学生の遅さんの存在は刺激になっています」(村田教授)

「日本の学校といえば噂に聞く言葉が『いじめ』だったりするので、少しドキドキしていましたが、全くそんな心配は要らなかったですね。ゼミの友人はみんな優しく、私を気遣ってくれます。今度、親和会の海外研修奨学金でシンガポールに行けることになりました。奨学金があることを知り、応募しました。現地の多文化共生政策を学ぶのを楽しみにしています」(遅さん)



将来について語る遅嘉懿（チ・カイ）さん（中）と指導教授の村田和代教授（左）

大宮学舎に近い留学生寮に暮らし、アルバイトは京都市内の看板のない日本料理店で、ホールスタッフとして和服を着て接客している。これも彼女にとっては和食の基本や日本人とのコミュニケーションを学ぶチャンスである。そんな遅さんの次の目標は—

「村田先生と出会って、英語を使いこなすことに憧れが湧きました。英語をもっと勉強し、海外の大学院に進学したいと思っています。英語圏の文化に触れて、学んでみたいです。将来は、まだ具体的には描けていませんが、せっきく多言語を学んでいるので、それを活かして人の役に立つ仕事に就き、経済的に自立して生きていけ

る女性になりたいです」

この6月に、龍谷大学は中国の瀋陽大学と包括協定を締結した。国境を超えた両大学の交流は、もっともっと活発になっていく。本学での学びをきっかけに、自らチャンスを掴む行動を次々と起こし、世界に羽ばたいていこうとしている彼女は、あとに続く留学生たちにとって、眩しい存在の一人となっていくだろう。

108 | Event Ryukoku Museum

ゆるい、かわいい、たのしい 庶民に愛された「日本の素朴絵」

秋季特別展 『日本の素朴絵』

2019年9月21日(土)～11月17日(日)

休館日＝月曜日(ただし9月23日、10月14日、
11月4日は開館)、および

9月24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、毎日新聞社、
京都新聞、NHK 京都放送局、NHK ブラネット近畿

監修：矢島 新(跡見学園女子大学教授)

近年「ゆるキャラ」が人気だが、日本の美術史をひもとくと、実はこうした「ゆるさを愛でる」志向は、最近になって生まれたわけではないことがわかる。

「ゆるやかなタッチでおおらかに描かれた、味のある作品が昔から存在し、なんとも言えない魅力で庶民に愛されてきました」

本特別展では、こうしたゆるくとほけた味わいのある作品を『素朴絵』と表現し、さまざまな時代・形式の作品を展覧する。

「無名の絵師が描いた絵巻は、素朴絵の宝庫です。たとえば室町時代(16世紀)の『つきしま絵巻』は、平清盛の福原遷都にまつわる人柱伝説を描いた説話絵巻です。物語自体は悲劇的ですが、絵の素朴さが見る人を和ませます。人物の造形は斬新で、腕や首のつき方も不思議なことになっています。しかし一方で、描線や構図の安定感など、描き慣れていることも見て取れます。いわゆるヘタウマと言いますか、なんとも言えないゆるい作風が魅力です」



つしま絵巻 室町時代、日本民藝館

こうした絵巻物のほか、掛軸、屏風から、仏画、摺物まで、展示構成は幅広い。また、絵画=平面作品にとどまらず、埴輪、仏像といった立体作品も展示される。

「龍谷ミュージアムのみの展示となる力士の埴輪は、高槻市の今城塚出土の古墳時代の埴輪です。このぼってりした頬や、お腹のボリューム感。古代人のパワーが息づくようなおおらかさを感じませんか?」

技巧や知識の有無をこえた素朴絵は、見方、楽しみ方も自由だ。日本美術の新たな魅力を教えてくれる。最初から頭で難しく考えるよりも、まずは見て感じるものを素直に受け止めるのが鑑賞のコツと言える。

「いいなと感じる作品に出会ったら、何に魅力を感じているのか、自分のツボ探しをしてみてください。また、人との感覚の違いも楽しいところ。ぜひお連れ様とも感想を交わしていただければと思います」



村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員
<https://museum.ryukoku.ac.jp/>

09 | People, Unlimited

龍谷人

人生の半分が日本 まだまだ続く卓球人生

木下グループ所属
日本卓球協会女子強化スタッフ
張本美和選手専属コーチ

孫 雪 さん

2018年、天才卓球少女の張本美和選手が壁にぶち当たっていた。2015年全農杯・バングルの部で優勝したが、その後は2年連続準優勝にとどまり、専属コーチを探していた。人を介した縁で張本美和選手とのマンツーマンのコーチが始まった。登録名は「そんせつ」、みんなは「ゆき」と呼ぶ。孫雪さんのコーチングは、二人で時間をかけて目標に突き進む、マンツーマンスタイルだ。現在小学6年生の松島輝空選手を4才から教え、全日本卓球選手権大会4連覇を達成させた実績を持つ。

中国は黒龍江省ハルビン生まれ。5才半で卓球を始めた。2010年スポーツ推薦で日本の高校から龍谷大学短期大学部へ。2年生の時、関西学生リーグ春季大会2部で優勝し、1部に昇格した秋季大会でも連続優勝へ導いた。その後は勉強に専念するために選手としてはピリオドをうち、コーチへと転身する。

大人なら技術面だけ教えればよいが、勝ちたいけれど遊びたい子どもはそうはいかない。スポーツは厳しいもの、苦しい練習を重ね

ないと勝てないということを教える。なぜ厳しくするのかを納得させる必要がある。日々のコミュニケーションを密にしなければ、子どもの心境の変化はつかめない。

卓球は一人で戦う競技、選手は孤独だ。選手にとって試合中は、後ろに座っているコーチが唯一の支えとなる。また、卓球はテニスやバドミントンに比べてプレースペースが狭い。だから体力も重要だが頭脳プレーが勝敗を左右する。試合前には対戦する選手の情報収集、試合が始まれば、1球、1セット、状況が変わる毎に、叱咤激励、状況に応じて冷静に戦術を伝える。唯一頼りになる味方は背後で見守る私しかない。それが試合での私の仕事。今は仙台を起点にして、二人で国内・海外へと飛び回る。めざすのはもちろん、オリンピックでの金メダル。

卓球で日本へ来て12年が経つ。日本での生活が人生の半分を過ぎようとしている。これからも卓球から離れることはないだろう。私の卓球人生はまだまだ続く。



そん せつ 中国黒龍江省ハルビン出身。2006年スポーツ推薦で明德義塾高校へ入学。2012年短期大学部卒。他大学に編入後大学院へ進む。現在は木下グループに所属し、張本美和選手の専属コーチ、日本卓球協会女子ホープスナショナルチーム強化スタッフを兼ねる。

09 | People, Unlimited

龍谷人

時代を彩るアーティストとともに 世の中に文化の種をまく

株式会社アミューズ
代表取締役 社長執行役員

中西 正樹 さん

サザンオールスターズや福山雅治をはじめとする日本を代表する数々のアーティストが所属する大手芸能事務所アミューズ(1978年設立、東証一部上場)、その新社長に2019年6月に就任したのが中西正樹さん。入社以来21年間サザンオールスターズのマネージメントの最前線、そこから45歳の若さで代表取締役 社長執行役員へ大抜擢。「さすがにドッキリかと思いましたが、人生の師とも言えるサザンオールスターズの桑田さんが、“頑張れよ!”と背中を押してくれた。それで覚悟が決まったんです」

関西から一人上京し地理感も人脈もなし。でも何事も面白がったり、楽しむ姿勢で、何処へでも人間関係のド真ん中へ飛び込んでいく。「最初は、相手の気持ちに立つという意味で、とにかく気を使いました。朝から晩まで、人間臭い現場を奔走する、そんな時代でしたね。その時間が、結果的にお客さんの求めていることを想像する原点であったのだと今実感します。心身ともに辛い時は、逆に桑田さんと

サザンのメンバーの人間愛に救われました」

桑田さんの病氣療養から東日本大震災、復帰ライブまでの日々は忘れられない。「仕事を超越した家族のような気持ちで一緒に乗り越えてきました。震災復興の象徴であり、桑田さんにとっての復帰ライブとなった2011年のセキスイハイムスーパーアリーナでの宮城ライブは、私の人生観を決定づけた大きな出来事でした」

「大切なことは、たくさんの人と接し、どれだけ深く経験したかに尽きる。そこで培われた想像力が芽生え、プロジェクトの花が咲く。たくさんさんの仲間ができ、イメージを共有して、人が喜んだり楽しんだりできる環境を作り、ひとりひとりの人生の一コマを彩る。そして、そこには時代を彩るアーティストがいて、振り返ると文化となる。ビジネスは数字や効率で測られる時代ですが、これまで私がアーティストやお客さんから教わったモノづくりの現場感や人肌といった温度感は、今の時代だからこそ必要であり、最も大切にしていきたいです」



なかにし まさき 1973年生まれ、京都市出身。1998年文学部真宗学科卒業。株式会社アミューズ入社後、早々に当時20周年の節目となるサザンオールスターズの担当マネージャーに。2008年から、タイシタレーベルミュージック株式会社代表取締役社長も兼任。長年、サザンオールスターズを中心に音楽マネジメントチームを牽引し続け、2019年6月より代表取締役 社長執行役員へ就任。

09 | People, Unlimited

龍谷人

中高生の学習支援、 小さな一歩から

のぎ自学室 主宰

社会福祉法人島根県社会福祉協議会

社会福祉士

村上 真奈 さん

子どもの居場所づくりが地域社会に求められているが、島根県松江市では中高生の学習の場も少ない。自宅ではなかなか集中できない、図書室は座席数が限られていていつも満席、飲食店も「長時間の勉強お断り」で行き場がない。

村上さん自身も、学生時代に資格取得のため実家のある松江で勉強しようとしたが場所に困ったことで、問題意識を持っていた。社会人になって2年、島根にUターンしてきてから「ないなら自分たちで勉強場所を作ろう」と仕事とは別のボランティアで始めたのが、中高生の学習支援の場『のぎ自学室』。

地元の公民館の部屋を借り、勤務時間外の平日夜に週1回、土日に月1回のペースで開室。多い時で10人ほどの子どもたちが利用している。当初、会場利用料などは自己負担していたが、企画書を見た地区社会福祉協議会が、利用料に加えその他の活動のために助成金まで出してくれるように。開室中の子どもたちの学習相談の相手としては、地元の大

学生が積極的に来てくれている。地域の方から集まったサポート会員費は、研修企画費や経済的に参加しづらい家庭の子どもたちのサポート費用に充てる。今年で開室4年目。

「この活動は福祉の言葉で『ソーシャルアクション』。小さな一歩から始め、社会を動かす大きな力になる。のぎ自学室も新聞記事から反響があって『自分たちの地域でも始めました』と言ってくださる方がいたり、駅前ホテルのラウンジが学習の場としても利用可能になったり、大学の図書室も夏休み期間に中高生の利用が可能になったり、と動きが見られます」

そんな村上さん、本業では福祉の仕事のマッチングや就職フェアの企画、研修事業をおこなっている。

「社会学部が大事にしている『現場主義』を学生時代に学んだことで実践できていると感じています。県社協の間接的な実務が多く、現場との接点が少ないので、現場で活動できるのぎ自学室の経験は社会福祉士として大切にしています」



むらかみ まな 島根県松江市出身。2012年社会学部臨床福祉学科卒。名古屋で教育系広告代理店に2年勤務後、2014年に島根にUターンし、島根県社会福祉協議会法人支援部に勤務。社会福祉士、国家資格キャリアコンサルタント。2015年よりボランティアで中高生学習支援の場「のぎ自学室」を開室。

最新情報



柔道部 武田亮子さんが 第30回ユニバーシアード競技 大会で金メダルを獲得

柔道部の武田亮子さん(経営3年)が、学生のオリンピックである「第30回ユニバーシアード競技大会(ナポリ)」個人戦(女子52kg級)、団体戦に日本代表として出場し、個人、団体ともに金メダルを獲得した。個人の決勝戦では優勝候補の韓国選手を相手に延長戦に突入。延長戦では目の上を切り止血したテーピングで片目が見えない状況のなか、相手の隙を突いて小内巻き込みで渾身の技ありを奪取し勝利した。



バドミントン部女子 関西学生バドミントン春季リーグ で17季連続優勝

2019年度関西学生バドミントン春季リーグ戦女子団体において、バドミントン部女子が見事優勝を果たした。17季連覇がかかるプレッシャーのなか、決勝戦もストレートで勝利し、圧倒的な強さをみせた。勝てば完全優勝が決まるダブルスでは、朝倉みなみさん(政策4年)・斉藤ひかりさん(経営4年)ペアが息のあったプレーでストレートで勝利。この結果、関西リーグ(女子団体戦)17季連覇を成し遂げた。



吹奏楽部 第42回全日本アンサンブルコン テストで金賞を受賞

3月に札幌コンサートホールKitaraにて第42回全日本アンサンブルコンテストが開催され、本学の吹奏楽部からクラリネット四重奏が関西代表として出場し、見事金賞を受賞した。京都予選から勝ち上がってきた出演メンバーは、昨年金賞を受賞したメンバーと同じで、本受賞により、2011年から8大会連続の出場、連続5回目・通算7回目となる金賞の受賞となった。



男子バレーボール部 関西大学バレーボール連盟春季 リーグ戦優勝

2019年度関西大学バレーボール連盟男子春季リーグにおいて男子バレーボール部が見事全勝で優勝した。決勝の大阪産業大学戦は両校とも無敗対決となったが龍大がフルセットに及ぶ激闘を制した。最終セット、苦しい展開のなかで気持ちを入れ替えた選手たちは6連続得点で流れを掴み、最後は強烈なスパイクが決まり、監督、選手が最高の笑顔に包まれて試合は終了。春季リーグで初の優勝を成し遂げた。



日本拳法部 第32回全国大学選抜選手権大 会男子の部準優勝

6月に東京武道館で開催された、第32回全国大学選抜選手権大会男子の部(5人制対試合)で日本拳法部が準優勝。本大会には全国から選抜された35大学が出演しており、2回戦では、昨年度の優勝校、明治大学に僅差で勝利、ベスト8をかけた対戦では立命館大学に勝利し、準決勝では同志社大学に快勝したものの、決勝戦で中央大学に惨敗。なお、技能賞に富永一希さん(経済1年)が選ばれた。



380th記念図書「時空を超えたメッ セージー龍谷の至宝ー」を刊行

龍谷大学は、創立380周年を記念し、『時空を超えたメッセージー龍谷の至宝ー』(法蔵館)を刊行した。創立以来、本学が蓄積してきたさまざまな分野の学術資料の中から、国宝『類聚古集』・重要文化財『李柏尺牘稿』、『念仏式』をはじめとする貴重資料約100点をオールカラーで紹介する。各資料にはポップなキャッチコピーを付すなど、読みやすさを重視。380年にわたる本学の歴史と所蔵する学術資料の多様性が感じられる一冊である。



八幡市インバウンドプロジェクト 龍谷大生が外国人観光客向け「指 さし会話集」を作成

政策学部村田和代ゼミでは、2017年度より八幡市と連携し、外国人留学生参加のモニターツアーの実施や外国語によるSNS発信により、インバウンド向けに八幡市のPRを行っている。今回インバウンドプロジェクト対応事業として、外国人観光客とのコミュニケーションをサポートする「指さし会話集」(ハングル、簡・繁体字、英語)を作成。八幡市長への贈呈式を挙げた。



Ryu-SEI GAP「はうすまいる」が「学まちコラボ事業」成果報告会で最優秀賞受賞

京都のまちの活性化に向け、大学と地域の連携事業を支援する京都市「学まちコラボ事業」の2018年度事業成果報告会において、政策学部 Ryu-SEI GAP「はうすまいる」が最優秀賞を受賞。Ryu-SEI GAPは、地域の課題解決に取り組むプロジェクトで、伏見いきいき市民活動センターの有限責任事業組合まちとしごと総合研究所と政策学部が協定を締結し、政策学部生約100名が正課外活動として取り組んでいる。



「漬物グランプリ2019決勝大会」で農学部食料農業システム学科の学生が「一般審査特別賞」を受賞

2019年4月、東京ビッグサイトで開催された「漬物グランプリ2019決勝大会」にて、決勝大会まで勝ち進んだ2組のうち、農学部食料農業システム学科3年生の高田壮真さんが「一般審査特別賞」を受賞した(作品名:かぶらの万能ジュレ)。当日は、審査員実食による審査や作品を紹介する2分間のプレゼンテーション審査がおこなわれ、さらに一般来場者試食による投票審査をもって、結果が決定された。



国際学部グローバルスタディーズ学科第1期生が卒業、TOEIC®L&R 730点以上などの基準スコアを約9割がクリア

2015年4月に新設した「国際学部グローバルスタディーズ学科」は、2019年3月に第1期生を送り出した。同学科が卒業要件とする、TOEIC® L&R 730点以上などの基準スコアを約9割の学生がクリア。第1期生の入学時(2015年4月)の平均スコアは438.3点だったが、卒業判定時(2019年2月)の平均スコアが771.2点で、4年間で332.9点上昇した。



学生、教職員、卒業生を含めた「龍谷大学有志」で「東京レインボープライド2019」のイベントに出展

性と生の多様性を祝福するアジア最大級の祭典「東京レインボープライド2019」の「プライドフェスティバル」に、学生、教職員、卒業生が「龍谷大学有志」としてブースを出展。関東以外の大学からの出展は初めて。本学の取り組みを知ってもらい、役立ててもらふこと、他の団体の取り組みや来場者の声などから学ぶこと、そしてネットワークを広げることが目的として出展。当日、レインボー念珠づくりなどが人気を集めた。



理工学部 内田欣吾研究室が 世界初、空気中の霧から水をつくる シロアリの翅の表面構造を再現

理工学部物質化学科の内田欣吾研究室は、独自技術を用い、シロアリの翅(はね)の表面構造を再現することに世界で初めて成功した。シロアリの翅は、空気中の小さな霧粒をキャッチし水滴をつくる一方で、大きな水滴は弾くという特性があり、今後は、この技術を応用し、空気中の霧から水滴を集めるといった実用化が期待される。本研究の成果は、Natureの姉妹誌Comms. Chem. 誌に掲載された。



龍谷大学大宮キャンパス東覺が 大阪府知事賞を受賞

大阪府建築士会がおこなう建築コンクール「第63回大阪建築コンクール」で、本学大宮キャンパス東覺が「大阪府知事賞」を受賞した。この賞は、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ建築作品の設計者を表彰するものである。



関西初・全国2拠点目「ユヌス ソーシャルビジネス リサーチセ ンター」を龍谷大学に設置

2019年6月20日、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス博士と龍谷大学は、ユヌス博士が提唱するソーシャルビジネスに関する研究拠点「ユヌス ソーシャルビジネス リサーチセンター(以下、当センター)」を深草キャンパス内に設置することに合意した。浄土真宗の精神を建学の精神とする本学では、仏教の観点で持続可能な社会を考える「仏教SDGs」を推進しており、ユヌス博士が推奨する「ソーシャルビジネス」とは共通することも多いことから、同氏と会談を行い、当センター設置の覚書締結に至った。今回の覚書締結により、本学を含め全世界にある76のユヌスソーシャルビジネスセンターのネットワークに加わることとなり、ユヌスセンターおよび他機関からの様々なサポートを活かした連携活動も展開していく。今後は「仏教SDGs」に関する研究および具現化を中心に、多岐にわたるソーシャルビジネスに関する研究や活動を連携して推進していく予定である。



三日月滋賀県知事が龍谷大学の 客員教授に就任 知事室にて辞令交付式を実施

2019年4月1日付で三日月大造滋賀県知事が、龍谷大学客員教授(招聘A)に就任いただくことに伴い、4月12日、知事室にて辞令交付式を実施した。龍谷大学と滋賀県は、2015年10月に包括協定を締結し、これまで、食や農業など様々な分野で連携を深めてきた。今後はより一層、滋賀県と連携し、様々な事業に取り組んでいきたい。



EU推進の留学・学術交流プログラム「エラスムス・プラス」により 龍谷大学とカーディフ大学(英国) が協定を締結

2019年4月19日、龍谷大学とカーディフ大学(英国)が、学生・研究者の交換協定を締結。龍谷大学犯罪学研究センターとカーディフ大学が連携し、犯罪学を中心とした大学院博士後期課程の学生と教員(研究者)を対象とした留学・学術交流プログラムを2019年度より開始した。



瀋陽大学と龍谷大学が 包括協定を締結

2019年6月10日、龍谷大学と本学協定校である瀋陽大学(中国遼寧省瀋陽市)が包括協定を締結した。調印式には本学から入澤学長、吉岡副学長、瀋陽大学からは李学長、王副学長が出席し、協定書に署名後、今後の両大学の新たな展開について意見交換をおこなった。調印式に先立ち、瀋陽大学最高経営責任者である蘇書記と入澤学長の会談がおこなわれ、これまで以上に両大学の交流を推進していくことが確認された。



京都市、田中宮市営住宅自治会 および龍谷大学による 公共空間利活用と周辺地域活 性化にかかる連携協定を締結

2019年4月19日、京都市、田中宮市営住宅自治会および龍谷大学による公共空間利活用と周辺地域活性化にかかる連携協定を締結した。本学学生が市営住宅に暮らしながら自治会活動にも参加することで、コミュニティ活性化の取り組みをおこなう。公営住宅において、学生とともに団地コミュニティの活性化に取り組むのは全国初となる。



社会福祉法人全国手話研修センターと連携協力に関する協定を締結

2019年4月26日、龍谷大学と社会福祉法人全国手話研修センターは、連携協力に関する協定を締結した。この協定により、学生や教職員への啓発、研修プログラムの実施、インターンシップ生の受け入れを実施していく。当日は、社会福祉法人全国手話研修センターの黒崎理事長、小出常務理事・事務局長に来学いただくとともに、本学学生の手話サークル「LEMON」の学生が協定締結式に参加した。



有田川町と龍谷大学が包括連携協定を締結

2019年7月8日、龍谷大学と和歌山県有田川町が包括連携協定を締結した。今回の協定では、相互の連携を強化することで、霊峰高野山を源流とする有田川流域で育まれた文化を活かし、有田川町の活性化を図っていく。今後は、本学と有田川町とで既に先行して進めている「ぶどう山椒の発祥地を未来につなぐプロジェクト」で有田川町と協働し、市場調査、産地の認知向上、および一般企業との協力体制を構築し、商品開発や一般消費者等へのプロモーションを図る。



東近江市と龍谷大学が包括連携協定を締結

2019年8月6日、龍谷大学と滋賀県東近江市が包括連携協定を締結した。今回の協定では、相互に協同事業に取り組むことにより、龍谷大学および東近江市の活性化等を図っていく。これまで公益財団法人東近江市三方よし基金の創設、農村振興基本計画の策定、民生委員・生活支援サポーター養成講座の講師派遣など、様々な連携事業を展開することにより、相互の協力体制を築いてきた。今後もこれまでの協力関係をより深め、更なる連携を進めていく。



副学長に白石 克孝(しらいし かつたか)教授が就任 (任期:2019.4.1~2021.3.31)

1988年より本学法学部で助教授として教鞭を執る。2000年法学部教授を経て、2011年4月から本学政策学部教授として現在に至る。2019年度より研究、社会貢献・SDGs、情報システム、広報担当の副学長に就任。専門分野は、政治学。

11

Book
Café

新刊紹介

*値段はすべて税込価格で表示
*Book Caféについては龍谷大学
学長室（広報）まで

02

出版助成

『Depopulation, Deindustrialisation and Disasters: Building Sustainable Communities in Japan』

白石 克孝(政策学部教授)、
的場 信敬(政策学部教授)編



日本が直面する諸課題に通底する3つの要素である、Depopulation(人口減少)、Deindustrialisation(脱工業化)、そしてDisasters(災害)を概括しつつ、その中から見出されるオポチュニティを捉えて、困

難な状況下での地域の持続可能性について論じている。
2019年6月刊/364頁/Palgrave Macmillan/
€59.49(電子書籍)/€106.99(ハードカバー)

04

出版助成

龍谷叢書48

『明治・大正 東京の歌舞伎興行
—その「継続」の軌跡』

寺田 詩麻(文学部講師)著



明治から大正、およそ100年から150年ほど前の東京で、江戸時代から続く歌舞伎はどう上演され、劇場はどう「近代化」されたのか。本書は、江戸からひきつづいて公の鑑札を受け、東京で営業し

ていたいくつかの劇場をおもな対象として調査し、会社方式の導入を軸とした経営の変化について考察したものである。

2019年6月刊/492頁/春風社/8640円

01

出版助成

『物権的妨害排除請求権の史的展開と到達点—ローマ法からドイツ民法へ』

川角 由和(法学部教授)著



「物権的妨害排除請求権」は、広く「差止請求権」の基礎をなす。それは、妨害者の不法行為が責任の有無にかかわらず、物権ないし所有権の客観的・現在的な不合法状態を阻止し、もって速やかに権利保護を図るものである。本書は、

最新の学術資料をもとにローマ法からドイツ民法への展開の跡を辿り、その到達点を明らかにした。
2019年2月刊/311頁/日本評論社/7344円

03

出版助成

龍谷叢書47

『ソクラテスのダイモニオンについて
—神霊に憑かれた哲学者—』

田中 龍山(文学部准教授)著



古代ギリシアの哲学者ソクラテスは、本当に「理性のひと」だったのか？ 彼の行為を決定したとされる「神霊の声(ダイモニオン)」とは何だったのか？ ささまざまな文献をもとに「ダイモニオン伝説」が形成されていく過程を追いつつ、

ソクラテス哲学の謎に新しい光をあてる。
2019年3月刊/261頁/晃洋書房/3888円

01

共同研究
活動

龍谷大学社会科学研究所叢書 第123巻

『「18歳選挙権」時代のシティズンシップ
教育—日本と諸外国の経験と模索』

石田 徹(龍谷大学名誉教授)、高橋 進(龍谷大学名誉教授)、渡辺 博明(法学部教授)編



本書は、「18歳選挙権」の実現を機に主権者教育が注目されるようになるなかで、政治学・憲法学・教育学分野の研究者たちが、自律的な市民を育むシティズンシップ教育のあり方を論じたものである。そこでは、諸外国(英・米・仏・伊・スウェーデン)の事情や龍谷大学での取り組みも紹介され、様々な

角度から検討がなされている。

2019年2月刊/231頁/法律文化社/4536円

02

共同研究 活動



龍谷大学社会科学研究所叢書 第124巻
『アフリカ安全保障入門』
落合 雄彦(法学部教授)編著

紛争、テロ、海賊、密輸、食料不足といった多種多様な脅威に晒されているアフリカ。その安全保障問題に関する基本事項を広範に網羅し、平易に解説する。アフリカの安全保障問題に関心を抱く初学者のために書き下ろされた最新の入門テキストブック。従来の紛争研究を超えた新しいアフリカ安全保障研究の地平を切り拓く。
2019年3月刊/315頁/晃洋書房/3240円

03

共同研究 活動



龍谷大学社会科学研究所叢書 第125巻
『災害時の情報伝達と地方自治体』
西本 秀樹(経済学部教授)編著、
西垣 泰幸(経済学部教授)著

本書は、災害時の我が国における各自自治体や民間でのSNS利用の現状や海外での活用事例、経済性、関連情報技術を解説し、今後の災害時情報伝達のあり方を考える時の基盤研究成果として編集した。本書の様々な事例や提案が、今後の災害被害を最小限にし、復旧活動が迅速かつ適切におこなわれるようになることに少しでも寄与できればと願っている。
2019年2月刊/170頁/日本経済評論社/3780円

04

共同研究 活動



龍谷大学社会科学研究所叢書 第126巻
『京都からみた、日本の老舗、世界の老舗』
松岡 憲司(龍谷大学名誉教授)編著

京都の老舗に関する本はたくさん出版されている。京都の老舗の特徴を知るためには、京都の老舗を調べるだけでなく、他地域と比較しなければならない。本書では京都の老舗を詳しく分析すると同時に、東京・金沢という国内他地域、そしてイタリアなど海外の老舗と比較して京都の老舗の特徴を明らかにしている。
2019年3月刊/300頁/新評論/3024円

05

共同研究 活動



龍谷大学仏教文化研究叢書 36
『仏教婦人雑誌の創刊』シリーズ 近代日本の仏教ジャーナリズム第2巻一』
岩田 真美(文学部准教授)・
中西 直樹(文学部教授)編著

本書は近代の仏教婦人会の草創期にあたる1880年代から90年代に注目し、仏教婦人雑誌を手がかりとして、婦人信者の組織化はどのように始まり、そこにはいかなる意味があったのかを明らかにする。周辺化され、焦点の当てられることも少なかった「近代仏教と女性」の問題に迫り、当該分野の研究に足がかりを与える1冊。
2019年2月刊/339頁/法蔵館/6480円
書評「中外日報」2019年4月19日、「仏教タイムス」2019年5月16日

06

共同研究 活動



龍谷大学仏教文化研究叢書 38
『中村久子女史と歎異抄
—人生に絶望なし—』
鍋島 直樹(文学部教授)著

中村久子女史(1897~1968)は、三歳で特発性脱疽がもとで両手両足を失った。逆境や、悲しみの中で、彼女は諸宗教に出あい、やがて、歎異抄に震えるような感動を覚えた。飛騨高山の真蓮寺に訪問し、中村久子女史の愛読していた『真宗聖典』『歎異抄真髓』を発見し、その成果を記した。彼女の力強い生き方と、彼女を導いた親鸞の救済観に私自身が教えられた。
2019年2月刊/173頁/方丈堂出版/1944円

07

共同研究 活動



龍谷大学アジア仏教文化研究叢書7
『蔵俊撰『仏性論文集』の研究』
楠 淳證(文学部教授)編著

『仏性論』について、世親(400-480年頃/インドの唯識論師)撰述の真偽を問う『仏性論文集』は、平安末期の著名な唯識学匠である菩提院蔵俊(1104-1280)の数少ない著作の一つであり、一三権実論争にも画期的な新展開をもたらす新発見の書。全編に翻刻・訓読・註記および詳細な解説を施し、その全貌を論じた初めての研究書。
2019年2月刊/407頁/法蔵館/16200円

08

共同研究 活動

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書8
『現代日本の仏教と女性—文化の越境
とジェンダー—』

那須 英勝(文学部教授)、若海 寿広(アジア仏教
文化研究センター 元博士研究員)編



本書は龍谷大学アジア仏教文化研究センターの研究ユニット「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」の研究成果の一部として出版されたもの。多文化共生が求められる現代社会における仏教に課せ

られた課題について国内外の研究者と仏教伝道の現場の僧侶がともに取り組んだ研究成果である。

2019年3月刊/242頁/法藏館/2376円

書評「仏教タイムス」2019年5月16日、「毎日新聞」2019年6月8日、「大法輪」2019年7月11日

01

みんなの 本棚

『家族に迷惑をかけないために
今、自分でやっておきたい相続対策』

堀口 敦史(2002年度経済学研究科
修士課程修了/税理士/大阪府)著



財産の把握、整理、移転。小さな行動が大きな効果を生む相続対策を伝える。「仲のよい」「普通の家庭」のための円滑で円満な相続を実現させる1冊。

2018年9月刊/240頁/同文館出版/1620円
書評「大阪日日新聞」2019年2月26日

02

みんなの 本棚

『追体験 霧晴れる時』

青木 聖久(2011年度社会学研究科大学院
博士後期課程修了/大学教員/愛知県)著



家族は家族である前に自らの人生の主人公。精神障がい者の15人の家族の物語を、本書を通じ追体験することによって人間の魅力と可能性に迫る。

2019年7月刊/219頁/ペンコム/1404円

03

みんなの 本棚

『あなたは、あなた。』

大來 尚順(2004年度文学部真宗学科卒業/
僧侶・著述家/山口県)著



仕事、同僚、友人、家族との繋がりが。30~40代の日常の悩みにフォーカスした1冊。見失いがちな自分を取り戻すための心の処方箋。

2019年6月刊/158頁/アルファポリス/1404円

出版情報

01:『スタディツアーの理論と実践—オーストラリア先住民との対話から学ぶフォーラム型ツアー』

友永 雄吾(国際学部准教授)著

ゲストとホストそしてコーディネータとの「交流」に焦点を当て、三者の変容の機会を提供する「スタディツアー」について、わかりやすく解説した。

2019年2月刊/192頁/明石書店/2376円

02:『あいまいな喪失と家族のレジリエンス—災害支援の新しいアプローチ』

黒川 雅代子(短期大学部教授)編著・共著

東日本大震災で「家族が行方不明である」、「故郷が変わってしまった」等のあいまいな喪失とその支援方法について、わかりやすく解説した。

2019年3月刊/163頁/誠信書房/2700円

03:『High Quality Liquid Crystal Displays and Smart Devices, Vol. 1, Chapter 14, Thin Film Transistors for Active Matrix LCDs The Institution of Engineering and Technology』

木村 睦(理工学部教授)共著

高性能の液晶ディスプレイとスマートデバイスに関する専門書。上記共著者は薄膜トランジスタによる駆動方式をわかりやすく説明している(英文)。

2019年3月刊/415頁/The Institution of Engineering and Technology (IET)/€120.00

04:『Critical International Relations Theories in East Asia: Relationality, Subjectivity, and Pragmatism』

清水 耕介(国際学部教授)編

アフラシア多文化社会研究センターのシンポジウムの成果をイギリスから発信。国内外の批判的なアジア国際関係の専門家による論文を収録した。

2019年2月刊/180頁/Routledge/£36.99(電子書籍)/£115.00(ハードカバー)

05:『道徳教育』

川中 大輔(社会学部講師)共著

教科化されて「考え、議論する道徳」への転換が進んでいる道徳教育について、理論的な理解や隣接領域の動向も踏まえつつ、具体方向を示している。

2019年5月刊/248頁/ミネルヴァ書房/2160円

06:『教職課程事務入門2～別表第1・第2・第2の2の詳細を理解する』

小野 勝士(事務職員)共著

大学教職員向けの教職課程事務に関する解説書。2019年4月施行の教育職員免許法及び同法施行規則の改正に対応した最新の解説書。

2019年3月刊/260頁/ジダイ社/3240円

龍谷 2019 No.88

Ryukoku Magazine 88 September 2019

広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。



広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>

下記URLおよびQRコードから過去の広報誌(デジタル版)がご覧いただけます



2017年No.84



2018年No.85



2018年No.86



2019年No.87

Digital Library

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>



広報誌『龍谷』88号(デジタル版)プレゼント応募・読者アンケートフォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



広報誌『龍谷』からプレゼント

龍谷ミュージアムペア招待券……………10組20名様

龍谷ミュージアムオリジナルグッズ

クリアファイルとマスキングテープ ……5名様(各1点ずつをセット)



ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。

また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども)および広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は右記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは2019年12月6日(金)必着。

応募多数の場合は抽選で。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

読者のひろば

わが子がこれから生きる世の中の様子に疎くならないように、多岐にわたる情報の一端をお知らせ頂いていると思い感謝しております。

在学生保護者 Sさん

常に新しいことに挑戦しようとする姿勢とそれを広く発信する試みがとても良い。

在学生保護者 Uさん

龍谷大学にとって誇るべき人材と活動(国際的、起業的、社会的)が紹介されています。自分も、少しでも、近づけるように心がけていきたいと思いました。

卒業生 Mさん

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室(広報)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話：075(645)7882

FAX：075(645)8692

E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

【編集委員】

青戸 英夫、安食 真城、井手 健二、石崎 学、小野 勝士、落合 雄彦、金 紅美、河角 隆弘、齋藤 正治、嶋崎 陽一、白石 克孝、竹田 純子、谷口 清朗、玉井 鉄宗、テブナル ミロシュ、田園、外村 佳伸、能美 潤史、野口 聡子、藤崎 智史、水野 哲八、山口 大、若林 雅子(50音順)

【事務局】

田中 雅子、山田 美由紀、増田 滋彦

広報誌「龍谷」88号

2019年9月12日発行

編集：龍谷大学編集委員会

制作：龍谷大学学長室(広報)

発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075(642)1111(代表)

龍谷大学ホームページURL

<https://www.ryukoku.ac.jp/>



公式 facebook 「龍谷大学」
www.facebook.com/RyukokuUniversity/



公式 YouTube 「龍谷大学」
www.youtube.com/user/RyukokuUniversity



公式 Instagram 「龍谷大学」
www.instagram.com/ryukokuuniversity/



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY